茨木市文化振興財団第百第七百四公演

上方落語五流派競演会 vol.7

笑福亭 福笑

桂 あやめ

林家 花丸

桂 梅團治

桂 ざこば

平成25年 6月2日【日】14:00開演(13:30開場)

茨木市市民総合センター クリエイトセンター・センターホール

【全席指定】1階席4,000円／2階席3,500円

◎65歳以上、障害者及びその介助者は500円引き

◎青少年(24歳以下)は1,000円

◎茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き

＊各会員割引の取り扱いは文化振興財団のみです。 ＊就学前のお子様の入場はご遠慮ください。

◆チケットのお申込み・お問合せ

(公財)茨木市文化振興財団・文化事業係 072-625-3055 (ユーアイホール1階 9:00～17:00)

インターネットチケット http://www.ibabun.jp

＊予約後は1週間以内に下記のチケットカウンターでご精算ください。チケットの引取り・窓口販売は発売翌日からです。

●ユーアイホールチケットカウンター9:00～17:00 ●クリエイトセンターチケットカウンター9:00～17:00

◆その他の販売所[4月6日店頭販売有り 10:00～]

ローソンチケット0570-000-777・Lコード予約0570-084-005(Lコード51555)＊ローソン各店舗で購入できます。

電子チケットぴあ0570-02-9999(Pコード426-375)＊サンクス、サークルK、セブンイレブン各店舗で購入できます。

◆主催:公益財団法人茨木市文化振興財団 ◆後援:茨木商工会議所/茨木市観光協会

◆制作:三栄企画 ◆構成:相羽秋夫

【番組】

「上方落語界の現状」相羽秋夫

＊

「時うどん」林家花丸

「宇治の柴舟」桂梅團治

「葬儀屋さん」笑福亭福笑

中入り

「京阪神日常事変」桂あやめ

「紀州」林家三平

「子は鎹」桂ざこば

お囃子／なにわの会

4月6日(土)9:00予約開始

公演の発売初日はインターネット・電話予約のみです。
残席がある場合は翌日から窓口販売いたします。

文化力

茨木名物！ 流派の威信と芸がぶつかる落語会

「流派」という言葉を辞書で調べると――技芸などで、それぞれ独自の主義や手法を持って分かれ立っている一派――とある。

わが上方落語界も、今や二百五十人を越す大世帯の中で、大きく分けて五つの流派が鎬を削っている。それぞれの流派の大黒柱である師匠の個性が、その門弟たちに反映して、一つの「色」を形づくっている。

この落語会は、そうした流派の特色をじっくりと聞き比べてみようという「会で」である。現在こうした趣旨を明確に正面に掲げて行われている落語会は他に知らない。出演者は、所属する流派の代表者として、クリエイトセンターの舞台でその威信をかけた芸を披露する。そこに迫真の演技が生まれ、緊迫した雰囲気が流れる。

この空気がたまらないというお客さんで、毎年満席になる。茨木でしか聞けない落語会としてすっかり名物になって、今回で七回目を迎える。今年も充実したメンバーで、皆さんの夢を叶える。必ずやご満足いただけると確信している。

その精鋭の出演者を出演順（予定）にご案内することにしよう。

□

まず開口一番は、「染丸一門」の**林家花丸**である。この名前は一門の大きな看板名であった。平成三年入門だから、二十年以上のキャリアを誇る。立派に名跡を継承している中堅である。花丸らしい繊細な情景描写を得意とし、皆さんご存知の『**時うどん**』という噺にも、いかんなくその魅力を発揮して、花丸の世界へ引き込む。

□

「春団治一門」からは、**桂梅団治**が代表する。京阪神の出身者が多い上方落語界にあっては珍しい岡山県倉敷市の生まれで、しかも福岡大学で多感な青春時代を送った。昭和五十五年入門当初の春秋から名跡四代目梅団治を襲名して十六年目になる。SL列車の"撮り鉄"マニアとしても有名だ。『**宇治の柴舟**』は、墨絵ぼかしの風情を漂わせた珍品である。

□

中入りのトリには「松鶴一門」の**笑福亭福笑**が、満を持して出演する。仁鶴、鶴光に次ぐ三番目の高弟なのだ。昭和四十三年にこの世界に入った。昔なつかしい噺家の雰囲気を芬芬とさせた貴重な存在で、そのオーラが通の落語ファンに高く評価されている。古典と同様に新作にも非凡な手腕を発揮し、自作『**葬儀屋さん**』もその系譜にある。

□

「五代目文枝一門」の**桂あやめ**は、十人を越えた女流の代表格である。昭和五十五年に先代の文枝門下となり花枝を名のる。さらに三代目あやめを襲名した。アイディアと行動力に富み、これまでに次々と新機軸を打ち出して注目されてきた。新作落語の分野にも、そのあやめイズムが浸透し、今回の『**京阪神日常事変**』に、真骨が象徴されている。

□

トリは、お待ちかね「米朝一門」の**桂ざこば**である。枝雀なき後の一門を真っ先駆けて引っぱってきた。昭和三十八年、上方落語苦難の時代に朝丸でこの世界をスタートさせた。それから二代目ざこばとなり、ちょうど今年五十周年を迎える芸歴はずしりと重い。『**子は鎹**』は、数少ない上方落語の人情噺だ。ざこばの哀感漂う口跡が冴える。

□

東京より遠来の演者二代目**林家三平**が花を添える。五流派の激突の中に東京落語の息吹を吹き込んで、一層この催しに幅と奥行を持たせてくれる。昭和の爆笑王。の異名を持つ初代三平は父である。母はエッセイスト、姉二人はかつてのタレントと現役の歌手、さらに兄は林家正蔵である。文字通りの芸能一家に育った。父の名を継ぎ、その期待の中で重圧を感じつつも、さわやかに活躍する姿は、上方のわれわれにも清清しく写る。前名のいっ平の名が早くも観客の脳裡から消え去ろうとしている。演ずる『**紀州**』で江戸前の芸を披露する。

□

「落語は一回性の芸術」と呼ばれる。演者と観客が作り上げるたった一度だけの芸術なのだ。CDやDVDで味わえぬ「生」の楽しさがそこに在る。演者と演目と会場と、どれも一級の確かさを、皆さんの全身で受け止めて欲しい。

（敬称略）

相羽秋夫（演芸評論家）

◆**チケットのお申込み・お問合せ**

〔公財〕茨木市文化振興財団 072-625-3055　（茨木市市民会館1階　9:00～17:00）

＊財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。お席のご指定もうかがいます。
　座席表をご用意いただくと便利です。

＊予約後は、1週間以内に市民会館またはクリエイトセンターチケットカウンターでご精算ください。

＊予約チケットの郵送をご希望の場合は、（チケット料金＋郵送手数料400円）を郵便局備え付けの「払込取扱票」でお支払いください。手数料はご負担願います。払込確認後の発送となります。
　（払込口座）00970-7-190576／加入者名：茨木市文化振興財団

◆**クリエイトセンター**（茨木市市民総合センター）茨木市駅前四丁目6番16号／072-624-1726